

「第7回 家族で道徳」【保護者意見】

令和3年1月20日(水)

資料：「りんごの何を食べるのか」

出典：中学生の道徳（廣済堂）《PHP研究所刊「PHP」昭和48年8月号》

家族の方から ※ご協力よろしく申し上げます。

家族の方が忙しい場合は、どのような話をしたか書いてみましょう。

「おすかしい。おすかしい」と言っていたが、じいじの豊かさとはいどういう事なのかと
 話ししました。文字にするとおすかしいと云うのは、困窮性だったようで、「あつたが、おすかしい
 「せいたくや豊かさ」を指すか下さう」のところで、「しつと塾やリ工場で言葉ががあらへい。
 皆そらで言合したり、ご食ふな食べたりする事が大事だと思つた」と言っていました。
 鬼畜軍団で、家族との会話をとおざかりにしている時に、家族とのつながりをせいたくや豊か

と聞いてくれていることがうれしく思っていました。鬼畜軍団を文字にした、おすかしいに
 するに意図があるといふこと、自分が成長するために相手の事を思いやるようにして欲しい
 と話し合いました。

食生活が簡単にすてはたり、ある上に次から次へとムダな買い物してほう時、こかうことをしてほ
 自分がすくせいたくしている気になつたりします。子供にらもまだに使えるのに文具が新しいもの
 と次から次へと買って満足し、それを大切にしない時があります。物があふれている時代かもしれなけれ
 ば、すべての物をそつとにせよ大切に使用し、ちゃんと使いきるにたつたり、食べ物であれば、作ってく
 た方の背景を少しは思い浮かべておいしくたべたり、味をみせて、毎日感謝していただくことも思わされい
 せいたくや豊かさは、当たり前のように過ぎて忘れてしまっているから、考えなおさうといひたいと話ししました。

人が生活する上で、快適さを求め、日常の中は、「当たり前でいいこと、か」あつた
 来ているのは確か。また消費がただけでは、物、食べもの、四季の味わいを感じることも
 物を大切に愛着を持つように使いたい。存在する事で想像すること。言ひ
 全くと「感謝」出来る心を 持つことが、より豊かさを生むのだと思ひました。
 この考えを 日々、活かすべからうと、
 おつた

私の仕事は、庭を作る仕事です。最近の人は、家を建てても庭がいらさない。
 木は植えない。土すらいらさない。コンクリートでいい、という人が多くなつた。
 庭はお金がかかる。木は伸びるし、土がめくれる。草が生える。が主な理由です。
 人間は、木がないと生きていけなりのには... この木を見れば、四季を
 感じる事ができるのに... 庭を作る感性を豊かにするのだから、せいたくや豊か
 未だ切つた、植えるから、日本の文化を味わえ、今の人達の
 心が、貧しくなつたような気が、するといふ話をしてしました。
 子として、この文章の通り、私も同じ気持ちです。

いつかに暮らして、いふ私達は、季節の野菜や果物を、その時期に
 作り、食っている。そういう、せいたく、豊かさ、を、あつかうたいと
 思ふなければならぬ、もうあつた、春の芽、こども、散ら
 あつた、下、よりかたない。しかし、いつかに暮らしていても、何人が、あつた
 なくて、食へない人がいるか、もつた、あつた、こども、毎年、春に食へる。
 ひあは、せいたくや豊かさを、暮らして、いふ、

「第7回 家族で道徳」【保護者意見】

令和3年1月20日(水)

資料：「りんごの何を食べるのか」

出典：中学生の道徳（廣済堂）《PHP研究所刊「PHP」昭和48年8月号》

家族の方から ※ご協力よろしくお願ひします。

家族の方が忙しい場合は、どのような話をしたか書いてみましょう。

「おずかしい。おずかしい」と言っていたが、どの豊かさとはどういう事なのかを
 話しました。文字にするととも困難だったようで、「あつたが味あつたけれど
 「おずかしいや豊かさ」を表現して下さい」とのこと。 「いつも塾や仕事で言葉が
 7月その2話したり、ご食事は食べたりすることが大事だと思った」と言っていました。
 鬼畜軍団で、家族との会話もおざなりにする時に、家族とのつながりをせつなく豊か
 と感じておられることがうれしく思いました。思っている事を言葉にしたり、相手に伝える
 方に自信が出来るという、自分が成長するために相手の事を思いやる事につながるとい
 と話を合いました。

食べ物も簡単に手に入ったり、ある上に次から次へとムダに買物をしてほう時、コウトとしてほう
 自分がずくせいにしている気になつたりする。子供にもまじりに使えるのに文房具が新しいの
 と次から次へと買って満足し、それを大切にしない時があります。物があふれている時代かもしれないけ
 れど、すべての物をそつとせつ大切に使い、きちんと使うことになり、食べ物であれば、作ってくれた
 方の背景を少しは思い浮かべておいしいにいたり、味のみならず、毎日感謝していただくことも思わされい
 せいにさや豊かさは、当たり前にはり過ぎて忘れてしまっているから、考えなおさふといけなと話しました。

人が生活する上で、快適さを求め、日常の中は、「当たり前でないこと、か、あつた
 来ているのは確か。また消費するだけでは、物、食べもの、四季の味わいを感じることを
 物を大切に愛着を持つように使いたい。存在する事を想像すること。おと 出陣
 全に「感謝」出来る心を持つことか、心の豊かさを生むのだと思ひました。
 この考えを 日々 活かせらねばならぬ。
 ぶと

私の仕事は、庭を作る仕事です。最近の人には、家を建てても庭は作らない。
 木は植えない。土すらいらない。コンクリートでいいよ、という人がふえた。
 庭はあつたがかわか。木は伸びず、土がめくれ、草が生え、が主な理由です。
 人間は、木がないと生きていけなりのこと。この木を見れば、四季を
 感じる事ができるのに、庭を作らず、感性を豊かにするの、せつたかなのか？
 未だ切つた、植えたから、日本の文化を味あつた、今の人達の
 心が、貧乏になりつつある様な気がすると言つて話をしました。

そして、この文章の通り私も同じ気持ちです。

いつかに暮らして、私達は季節の野菜や果物を、その時期は
 作り、食べている。そう、せつた、豊かさ、とあつたかとい
 思ふなければならぬ、もうあつた、つうの芽、こども、数え
 あつた、つうの芽、こども、数え
 なくて、食べない人がいるか、もつた、つうの芽、こども、数え
 して、あつた、つうの芽、こども、数え